

防災情報シンポジウム（イベント 032）

日時

平成17年1月28日（金）

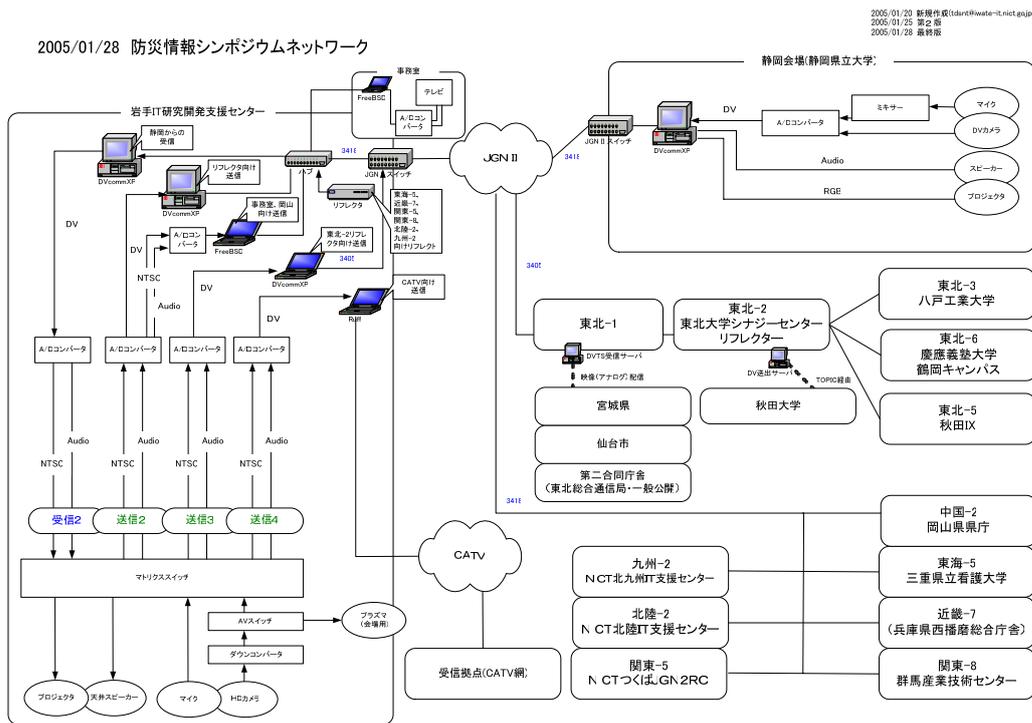
場所

岩手 I T 研究開発支援センター

主催

独立行政法人情報通信研究機構 岩手 I T 研究開発支援センター、岩手県地域連携研究センター、岩手 I T 研究開発支援センター利用促進協議会、財団法人岩手県学術研究振興財団、岩手地区ギガビットネットワーク研究会

実施内容



プログラムは別紙参照

参加人数

320名

実施

参加者の反応

参加者は、自治体防災関係者を始め、研究者、民間企業関係者など岩手会場70名のほか、静岡会場22名など遠隔参加者約250名に上り関心の高さが際立った。マスコミもNHK地元放送局とTV3社が当日夕方と翌日の朝のニュースで流したほか、新聞2紙が翌日朝刊に掲載した。シンポジウムの内容もさることながら、JGN IIと当センターの周知にも大変効果的であった。

結果

所見、反省、来年度の計画等

今回、JGN IIの準備に時間が掛けられなかったことでJGN IIセンターやNOCや各地のAPなどに負担をお掛けしたが、関係者のご尽力により無事に終了する事が出来た。岡山県が前日夕方受信を申し込みをするなど各地の受信拠点でも関心が高かった。また、通信品質についてはいずれのAPでも特に問題なく、映像・音声ともに良好であった。今回のシンポジウムをプレイベントと位置づけて東海地区JGN II利用推進協議会が3月15日に防災のシンポジウムを企画中であるため、早めの準備と実験で成功に結びつける。

参考資料：静岡新聞

防災情報どう発信 県立大―岩手結びシンポ ネット活用事例報告

情報ネットワークを生かした防災について考える「防災情報シンポジウム」が28日、静岡市谷田の県立大と岩手県滝沢村を高速回線で結んだ遠隔会議形式で行われた。新潟県中越地震でのネット情報活用や、災害情報ネットワーク先進事例の報告などを通じて、防災情報の伝達の在り方を参加者が考えた。

メイン会場の岩手県IT研究開発支援センターでは、県立大経営情報学部の湯瀬裕昭助教授ら6人が事例を報告した。湯瀬助教授は、中越地震でのインターネット利用について、被害情報や生活情報を掲載したウェブサイト、携帯電話による安否確認、公開日記型のウェブサイト「ブログ」を使った情報発信など、多彩なネット情報が活用された実情を解説。課題として、情報の整理や信頼性の確保を図る必要性などを挙げ、「情報発信にかかわる関係者の人的ネットワークづくりや、ネットユーザーへの十分な啓発を」と望んだ。

このほか、地図データを使った災害情報発信サイトなどの先駆的な取り組みの紹介が相次いで行われ、参加者が認識を深めた。

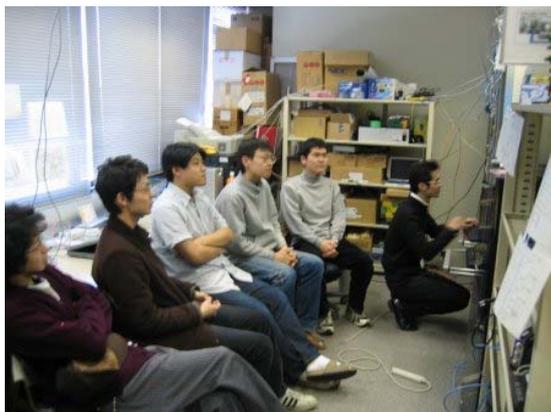
群馬会場



兵庫会場



仙台



山形県



岩手IT研究開発支援センターホームページによるイベント報告ページ

<http://www.iwate-it.nict.go.jp/event-houkoku20050128.htm>